

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 113 号 2007.9.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

人が土を目覚めさせる

9月17日(日)、長野県木島平の堀農園での圃場見学会に参加し、稲刈りを間近に控えたコシヒカリ・もち米の元気な姿を見せていただきました。

特に、無施肥無農薬栽培を実践して10年目の田んぼは、とても力強く輝いていました。

堀さんは7年目から収量も安定し、雑草がほとんど生えなくなった。ヒエが消えた」と、嬉しそうに稲の株間を分けて見せてくれました。(右の写真)

特に今年は、保温折衷苗代で育苗、水温や箱と土との接地、水位に気を配ったとのこと。そのため生育がよく、また田植え後の活着もよく、例年ではいったん黄色くなってしまうところが今回は青々としていたそうです。

しかし、このような田んぼになるまでには、誰でもぶつかる壁があります。自然農法に転換してから数年間は収量が激減するため経済的に困窮し、そこで挫折してしまう生産者が多いのです。堀さん自身それを経験し、あまりの過酷さに「これがあるべき姿とあまんじいいのだから」と疑問に思ったそうです。

ある年、堀さんは「徹底した除草」に取り組まれ、転換して3年目の田でも極端な減収はなく、7割の出来だったという結果を得られました。徹底的な除草作業により、土が稲を作る力をより早く取り戻せるのではないかと感じられたそうです。

自然農法の普及のためには、生産者が壁にぶつかった時、それを乗り越えた先にあるものを示し、サポートする態勢が必要なのだと言われていました。

人間の働きかけに、土は答えてくれる、こういうものを作りたい、という作り手の理想がなければならぬ、ただ年数だけ長くやってもだめなのだ・・・

今まで誰もやったことのない、「農業の改革」に取り組む堀さんの姿勢に感動を覚え、いったい自分には何ができるのかを問いかけ、帰路につきました。(編集部 田村)



ミニトマトに救われた私！

練馬区 山吹祐子

8月20日昼、娘と出かけたところ、強い陽射しと暑さの中、フツと意識が遠のくような貧血の症状がありました。「そんなときは自然のミニトマトよ」と、ある方から勧められ、頂くと、食べるごとに力が湧いてきましたので、早速買って帰りました。

この日、自転車で家を出たのですが、途中具合が悪くなり、山手通りと目白通りの交差点の近くに自転車を放置し、タクシーに乗って来ていました。帰りはその自転車を取りに戻ろうと、その交差点に近いと思われる、地下鉄中井駅で降りました。

ところが、駅のエレベーターに乗る手前で、再び貧血状態になり、座り込んでしまいました。途方に暮れる中、手元にあるミニトマトに気づき、ひとつ食べました。すると、力がでてきて、2、3、4個と、食べるごとに瞬時にエネルギーになることを実感し、どうにか動けるようになったのです。本当に不思議でした。



それでも自転車をあきらめ、体力のあるうちに自宅へ戻ろうと思いました。タクシーを拾おうと通りに出ましたが、なかなか空車が来ません。すると、目の前でバスの扉が開きました。そこはバス停だったのです。自宅とは反対側へ行くバスですが、目白通りに出たらタクシーが拾えるかと思い、通りに出て一つ目のバス停で降りました。すると、ななめ前に私たちの自転車がいたので、びっくりしました。

自然の作物は、体調だけでなく、判断力や運までも良くしてくれるのではと感激し、涙が溢れました。娘もほっとしたのか泣きだし、2人でゆっくり、自転車で自宅へ帰ることができました。

2日後、奇しくも、ミニトマトの産地でもある長野県木島平での学生会体験学習に、申し込んでいたので、娘と参加しました。大豆畑の雑草取りなど、感謝の心ですることができ、自然農法の畑だからか、疲れるどころか、逆にエネルギーをもらいました。また、自然田の稲は、生命力に満ち溢れ、とても美しく、そばにいただけで元気が出ました。さらに、私は低体温なのですが、バーベキューでたくさんの無施肥無農薬の野菜を頂いたら、体の中から体温が湧き上がる感覚がして、それから数日間、体がほかほかと体調も良かったです。このことにも驚かされました。

この数日間の出来事で、自然農法の素晴らしさを改めて実感でき、本当に有り難かったです。

TOREK 自然農法 頒布会

9月15日(土)、今回の東中野会場では、卵やお茶、加工品とともに、いつになく多くの自然農法の野菜が販売されました。

特に、ジャガイモの種類が多さ、味わいには驚くものがあり、近所の子供たちが試食コーナーから離れない、という事件？もありました。また、病気になるので体に良いものを食べたい、という方々もいらして、今後のその方々の健康と、無施肥無農薬の作物の一日も早い普及を願いました。

開始から数時間、大体の野菜がなくなったかなと思いきや、午後の宅配便でも野菜が届き、店頭で販売することで、通りすがりの方々もお野菜を買っていきました。「妻が妊娠しているので良いものを食べさせたい」という男性、「ジャガイモがすごくおいしいから買って！」とお母さんにねだるお子さんなどなど。

無施肥無農薬の野菜を求める方々の姿を見ると、このような地道な頒布会活動の継続が、いかに大切かを思いました。



TOREK 鎌ヶ谷会場では、頒布会を毎月開催しています。 10月19日(金) 11:00~15:00

お知らせ

< TOREK 自然農法 農産展 >

11月3日(祝) 13:00~16:30

テーマ「現実を知る 生産者の想い」

< 自然農法 勉強会 >

10月15日(月) 午前の部 10:30~

午後の部 19:00~ (別院 講堂)

無施肥無農薬栽培物の販売予定

10月3日 於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

- 市川生産グループ：新茶、ほうじ茶
- 飯塚農園：ダイコンの間引き菜
- きじま平自然農産：煮トマト、冷や麦、納豆、豆菓子、小麦粉、きのこめし
- 中島農園：ジャガイモ、トマト、ニンジン、ネギ
- 長柄山自然農園：卵、バジルペースト
- 針貝成代さん：クッキー
- 宮澤弥生さん：飯塚さんのイチゴのロールケーキ、ルバーブのタルト、自然のコーヒーのモカロールケーキ、マドレーヌ、プリン



お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>